

科目：宗教文化研究（仏教文化） コード 1030400

担当者：鈴木隆泰 単位数：2 開講年次：2・3・4 年後期

講義のねらい

日本を含むアジアの広範囲に伝播した仏教を一つの大きな文化体系として捉えつつ、宗教というものの本質的理解を目指す。

講義の概要

まず原点であるインドの地平に立ち返り「釈尊の仏教」を学んだ後、順次「釈尊以降の様々な仏教」に移行する。仏教はその姿を時代・地域によって様々に変容させてきたが、その原因がどこにあるのかを探ることがこの講義のキーポイントである。

講義の計画・方法・内容

- 1 - 概論：「仏教ってどういうものですか?」と尋ねるので、自分なりに答えを用意しておいてもらいたい。
- 2 - 釈尊の仏教(1)：仏教の原点である釈尊の思想を概観し、なぜ彼がインド社会において仏教を提唱したのかを探る。
- 3 - 釈尊の仏教(2)：釈尊の思想を通じて、仏教、ひいては宗教とは何かに迫る。キーワードは「サンスカーラ」である。
- 4 - 釈尊の仏教(3)：仏教の様々な真理観を、サンスカーラを軸に解説する。
- 5 - 釈尊の仏教(4)：釈尊のことは、特に遺言を通して、彼がどれほどサンスカーラに注意を払っていたかを学ぶ。
- 6 - インドの仏教(1)：ヒンドゥー社会との交渉を視野に入れて、釈尊以降の仏教の変容の度合いを測る。
- 7 - インドの仏教(2)：世紀前後、「釈尊へ帰れ」という運動が起きた。大乘仏教の登場である。
- 8 - インドの仏教(3)：仏陀を求める心は、ついに仏陀の現存を民衆一人一人の内側に見出した。如来蔵・仏性思想の登場である。
- 9 - インドの仏教(4)：僧侶たちが難解な教理研究に没頭する中、民衆は新たな仏教を密教に求めていく。
- 10 - チベットと東南アジアの仏教：チベット仏教と東南アジア諸地域に伝播した南伝仏教を概観する。
- 11 - 中国の仏教：儒教思想と仏教思想の出会いは、最初から様々な問題を引き起こした。その顛末やいかに。
- 12 - 日本の仏教(1)：「異国の神」である仏陀を祀る必要があるのか? 中国同様、日本でも問題が生じることとなった。
- 13 - 日本の仏教(2)：国家仏教としての奈良仏教と、日本ではじめて「民衆」という視点を織り込んだ平安仏教が登場した。
- 14 - 日本の仏教(3)：なぜ鎌倉時代に、浄土宗・浄土真宗・曹洞宗・臨済宗・日蓮宗などの新仏教が登場したのだろうか。
- 15 - 日本の仏教(4)：引き続き鎌倉仏教およびそれ以後の展開を学び、最後に総括を行う。

テキスト

教科書は使用しない。適宜参考文献を紹介する。

【参考 URL】<http://www.fis.ypu.jp/~suzuki/2002/>

成績評価の方法

平常点及び学期末レポート（受講者数によっては試験）によって総合的に評価する。